

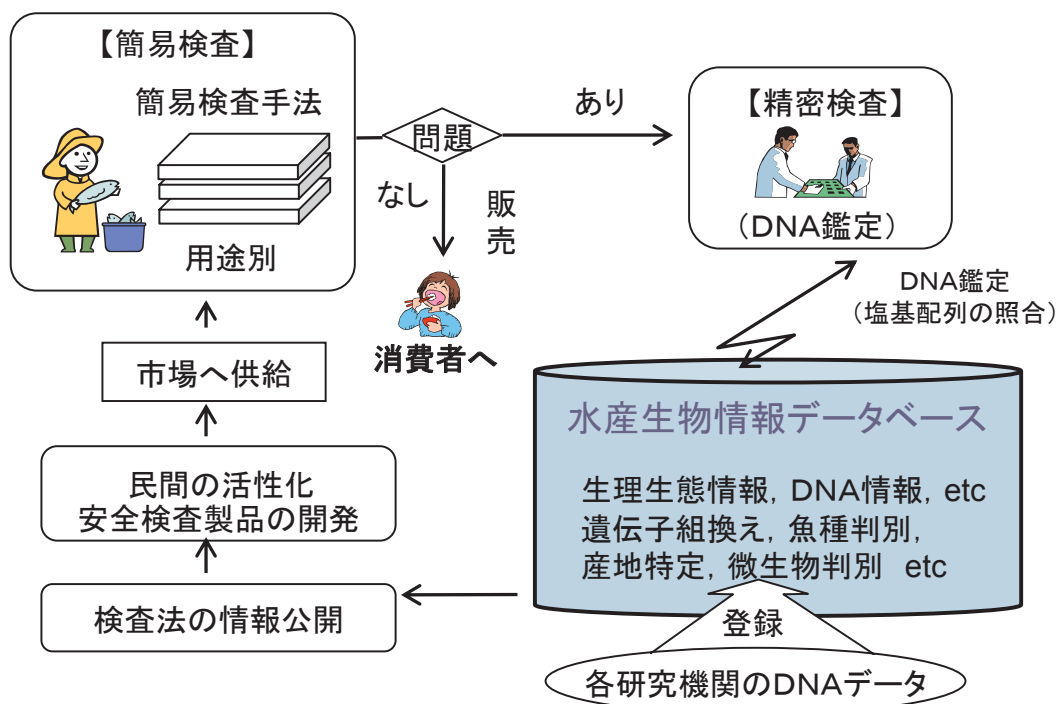
# 水産生物の種を判別するためのDNA多型の探索とデータベース化

## 背景と目的

魚介類の種や産地などを判別することは、食の安全・安心を確保するための基本であり、その核となる技術の一つに種ごとに異なるDNA情報(DNA多型)を利用した方法がある。これを活用して、どこからでも魚種や産地などを判別できるよう、データベース検索による照合が可能なシステムを作り、消費者の水産物への安全、安心に貢献する。

## 成果

水産生物の生理・生態などの情報とDNA情報を一元的に管理する生物情報データベースの検討を行った。ここでは、判別のための検査を「簡易と精密」の2段階とし、簡易検査で問題が発生した時、専門機関でさらに精密検査することで安全・安心を確保するシステムとした。



## 波及効果

### システムの技術開発

- ① 精密検査は従来の技術を活用することとし、新たに誰でも利用可能な簡易検査の手法を研究する。
- ② 検査手法、遺伝子情報などの情報を公開し、DNA情報による鑑定などの検査を可能とさせる。

DNA情報などの生物情報を利用して、水産物の安全・安心を確保する。